

Copyright © 2021 by Motoyuki Shibata

英文精読教室
第1巻
物語を楽しむ

PRINTED IN JAPAN

はじめに

この「英文精読教室」は、読者が英語の小説を原文で読むのを助けるためのシリーズです。

まずは編者がこれまで読んだり訳したりしてきたなかで、とりわけ面白いと思った短篇小说を選び、6巻それぞれ、ひとつのテーマに沿って作品を並べてあります。第1巻から順に読む必要はありません。ご自分が惹かれるテーマから手にとっていただければと思います。各巻、まずはウォームアップ的にごく短い作品を据えたあとは、時代順に並んでいますが、これも順番に読む必要はありません。各作品の難易度を1～3で示してありますから（1が一番易しい）、読む際の目安にしてください。

どの作品にも詳しい註を施しました。註というものはつねに諸刃の剣であり、読者によって「小さな親切」にも「大きなお世話」にもなりえますが、このシリーズではどちらかというと、一部の読者には「大きなお世話」になる危険も覚悟で、やや多めに註が施してあります。ご自分の読みが妥当かどうかを確認してもらえよう、右側のページには対訳を盛り込みました。少し語学的に敷居が高い、と思える作品に関しては、まず対訳を読んでから原文に向かう、というやり方もあると思います。

「まっとうな翻訳があるなら、何も原文で読む必要はないじゃないか」とおっしゃる読者もいらっしゃるでしょう。むしろその方が多数派かもしれません。僕自身、まっとうな翻訳を作ること、長年主たる仕事にしてきましたから、そういう読者が大勢いてくださるのはとても嬉しいことです。

その反面、原文で読むことの楽しさを味わいたい、と思われる読者も一定数おられるという確信も僕にはあります。そのなかで、何の助けもなしに辞書だけで原書を読むのはちょっと厳しい、という読者がまた一定数おられるという確信もまたあります。

かつては近所の書店に行けば、註釈付きの英語読本や英和対訳本が並んでいて、僕も中学のころから日本のおとぎ話やO・ヘンリーの短篇などを易しい英語で書き直した本を買ってノートに訳文を書いて楽しんだものですが、ふと気がつくともうそういう本もずいぶん減ってしまいました。この残念な欠如を、本シリーズが少しでも是正できれば幸いです。

編訳註者

英文精読教室 第1巻 物語を楽しむ

目次

はじめに 3

I. A. Ireland, “The Ending for a Ghost Story” (1891) >>難易度1 ★★★
(I・A・アイルランド「幽霊ばなしのためのエンディング」) 7

W. W. Jacobs, “The Monkey’s Paw” (1902) >>難易度2 ★★★
(W・W・ジェイコブズ「猿の手」) 11

Shirley Jackson, “The Lottery” (1948) >>難易度1 ★★★
(シャーリー・ジャクソン「くじ」) 65

Ursula K. Le Guin, “The Ones Who Walk Away from Omelas” (1973)
>>難易度2 ★★★
(アーシュラ・K・ル＝グウィン「オメラスから歩き去る者たち」) 111

William Burroughs, “The Junky’s Christmas” (1989) >>難易度2 ★★★
(ウィリアム・バロウズ「ジャンキーのクリスマス」) 147

Kazuo Ishiguro, “A Village After Dark” (2001) >>難易度2 ★★★
(カズオ・イシグロ「日の暮れた村」) 183

James Robertson, “The Miner” (2014) >>難易度1 ★★★
(ジェームズ・ロバートソン「坑夫」) 243

授業後の雑談 251

I.

1 Without, the night was cold and wet, but in the small
2 parlour of Laburnam Villa the blinds were drawn and
 5 the fire burned brightly. Father and son were at chess, the former,
 who **3** possessed ideas about the game involving radical changes,
 putting his king into such **4** sharp and unnecessary perils that it
 even **5** provoked comment from the white-haired old lady knitting
6 placidly by the fire.

10 'Hark at the wind,' said Mr. White, who, having seen a fatal
 mistake after it was too late, **8** was amiably desirous of preventing
 his son from seeing it.

'I'm listening,' said the latter, **9** grimly surveying the board as
 he stretched out his hand. 'Check.'

15 'I should hardly think that he'd come **12** to-night,' said his
 father, with his hand **13** poised over the board.

I.

外は寒い夜で、雨も降っていたが、ラバーナム荘の小さな居間ではブライ
 ンドが下ろされ、暖炉はあかあかと燃えていた。父と息子がチェスをしてい
 て、父の方はチェスというゲームをめぐる根本的な変革を伴う見解を有し
 ているせいで、キングを甚大かつ不要な危険に陥れたため、暖炉のそばで静
 かに編み物をしていた白髪の老婦人までが口をはさむことになった。

「風の音を聴いてごらん」とホワイト氏は、致命的な過ちに気がついたもの
 の時すでに遅く、息子が気づくのを邪魔しようと愛想よく言った。

「聴いてますよ」と息子の方は、^{いか} 厳めしい顔で盤面を見渡しながらか片手をつ
 き出した。「王手」

「今夜はもうあの男、来そうにないな」と父親が、片手を盤の上に浮かせて
 言う。

「詰み」^{メイト}と息子が答えた。

「町外れの暮らしはこれだから嫌だ」とホワイト氏が出し抜けにすごい剣幕

① Without: 外では。現代では Outside が普通。

② (a) parlour: 居間

③ possessed ideas about the game involving radical changes: (チェスと
 いう) ゲームに関する、根本的な変化を伴うアイデアを持っていた。自分では
 何か独自の必勝法のようなものを父親が持っているつもりでいる、というこ
 とをユーモラスに言っている。

④ sharp and unnecessary perils: 大きな、不要な危険

⑤ provoke(d): ~を引き起こす、誘発する

⑥ placidly: 穏やかに

⑦ Hark at the wind: 「風の音を聞け」。現代では Listen to the wind が普通。

⑧ was amiably desirous of preventing his son from seeing it: 直訳すれば
 「息子がそれ(その致命的な間違い)を見てとるのを妨げることを、愛想よく望

んでいた」。

⑨ grimly surveying the board: チェス盤を^{いか} 厳めしく見わたして

⑩ Check: 王手

⑪ I should hardly think that ...: まず~ということはないだろう

⑫ to-night: 20世紀初頭くらいまでは to-day や to-night といった書き方も一般
 的だった。

⑬ poise(d): (宙に) 保つ

The morning of June 27th was clear and sunny, with the fresh warmth of a full-summer day; the flowers ^①were blossoming profusely and the grass was richly green. The people of the village began to gather in the square, between the post office and the bank, ⁵around ten o'clock; in some towns there were so many people that the lottery took two days and had to be started on June 26th, but in this village, where there were only about three hundred people, the whole lottery took less than two hours, so ^②it could begin at ten o'clock in the morning and still be through in time to allow the ¹⁰villagers to get home for ^③noon dinner.

The children assembled first, of course. ^④School was recently over for the summer, and the feeling of liberty ^⑤sat uneasily on most of them; they tended to gather together quietly for a while before they ^⑥broke into boisterous play, and their talk was still ¹⁵of the classroom and the teacher, of books and ^⑦reprimands. Bobby Martin had already ^⑧stuffed his pockets full of stones,

6月27日の朝は澄みわたった晴れの日で、夏の盛りの爽やかな暖かさに満ちていた。花は咲き乱れ、草はみずみずしく青い。村人たちは10時ごろから、郵便局と銀行のあいだにある広場に集まりはじめた。町によっては人口も多く、くじに2日かかるので、6月26日に始めないといけないところもあったが、この村は人の数も300程度なので、くじには2時間とかからず、午前10時に始めても村人たちが昼の食事に帰れる時間に終わるのだった。

むろんまずは子供たちが集まってきた。学校は夏休みに入ったばかりで、大半の子はまだ自由の気分になじんでおらず、騒々しい遊びを始める前にしばらく静かに固まっていることもしばしばで、話題にするのもまだ教室、先生、教科書、誰それが叱られたといった事柄だった。ボビー・マーティンはすでにポケットに一杯石を貯めていて、ほかの子たちもじきそれに倣い、一

- ① were blossoming profusely: ふんだんに咲いていた、咲き乱れていた
- ② it could begin at ten o'clock in the morning and still be through in time to ...: 午前10時に始めて、それでも (still) ~するのに間に合う時間に終われる。
be through: 終わる
- ③ noon dinner: 昼の食事。p. 38, l. 3 と同じ。
- ④ School was recently over for the summer: 学校は最近終わって夏休みになっていた
- ⑤ sat uneasily on most of them: 直訳は「彼らの大半に落ち着かなげに載っていた」。
- ⑥ broke into boisterous play: 騒々しく遊びはじめた。broke into <break into ...: 突然~しはじめる
- ⑦ reprimand(s): 叱責

- ⑧ stuffed his pockets full of stones: ポケットに石を一杯詰め込んだ

With ^①a clamor of bells that ^②set the swallows soaring, the Festival of Summer came to the city ^③Omelas, ^④bright-towered by the sea. ^⑤The rigging of the boats ^⑥in harbor sparkled with flags. In the streets between houses with red roofs and ^⑦painted walls, between old ^⑧moss-grown gardens and under ^⑨avenues of trees, ^⑩past great parks and public buildings, ^⑪processions moved. Some were ^⑫decorous: old people in long ^⑬stiff robes of ^⑭mauve and grey, ^⑮grave master workmen, quiet, merry women carrying their babies and chatting as they walked. ¹⁰In other streets the music beat faster, a ^⑯shimmering of gong and tambourine, and the people went dancing, the procession was a dance. Children ^⑰dodged ^⑱in and out, their ^⑲high calls rising like the swallows' ^⑳crossing flights over the music and the singing. All the processions ^㉑wound towards the north side of the city, ¹⁵where on the great ^㉒water-meadow called the Green Fields boys

鐘がけたたましく鳴って燕たちが舞い上がり、〈夏の祭〉がオメラスの街にやって来た。明るい塔の建つこの海辺の町で、港に停泊した一連のボートの索具には旗が飾られキラキラ光っている。街なかでは、屋根が赤く壁にはペンキを塗った家々のあいだ、苔むした古い庭と庭のあいだや道路脇に連なる並木の下、大きな公園や公共建築の向こう、といたるところで行列が動いていた。きちんと着飾った人もいる。藤色と灰色の長いこわばった式服を着た年配の人々、重々しい雰囲気職人の親方、赤ん坊を抱えて歩きながらお喋りしている物静かで明るい女たち。通りによっては音楽もより速く鳴り、ゴングとタンバリンが光を浴びてゆらめき、人々は踊りに出てきた——行列自体が踊りなのだ。子供たちがひらひらと列から出入りし、彼らの甲高い呼び声が、交叉して飛び交う燕たちのように音楽や歌声と競いあって立ちのぼる。すべての行列はくねくね進んで街の北側に向かい、そちらにはグリーン・フィールドと呼ばれる広い湿地があって、まぶしい空気のなか裸になった男

① 副題 Variations on a theme by William James: “Variations” (変奏曲)、“theme” (主題) は音楽用語。この副題の意味については「ちなみに」で述べるが、まずは小説を読むことをお勧めする。

① a clamor: 喧噪

② set the swallows soaring: 燕たちが空高く舞い上がるよう駆り立てた。set ... ~ing (...が~するようせき立てる) という定型句。

③ Omelas: 作者本人によれば、発音は“O”に強勢がある。

④ bright-towered: 明るい塔のある

⑤ The rigging: 索具 (船の帆やマストを支えるロープ・鎖類)

⑥ in harbor: 停泊中で

⑦ moss-grown: 苔の生えた

⑧ avenues of trees: avenue はしばしば、街路樹のある通りを意味する。

⑨ past: (空間的に) ~を過ぎて、~の先に

⑩ procession(s): 行列

⑪ decorous: 上品な、あらたまった

⑫ stiff robes: こわばった式服

⑬ mauve: 藤色の

⑭ grave master workmen: 重々しい様子の、職人の親方たち

⑮ shimmer(ing): ちらちら光る

⑯ dodge(d): ひらりと身をかかわす

⑰ in and out: 出たり入ったり

⑱ high calls: 甲高い呼び声

⑲ crossing flights: 直訳すれば「交叉する飛翔」。

⑳ wound towards ...: 曲がりくねって~の方に進んでいった。wound は wind /wáInd/ の過去形。

㉑ (a) water-meadow: (しばしば冠水する肥沃な) 牧草地

It was Christmas Day and Danny ❶ the Car Wiper ❷ hit the street ❸ junk-sick and broke after seventy-two hours in ❹ the precinct jail. It was a clear bright day, but there was no warmth in the sun. Danny ❺ shivered with an inner cold. He ❻ turned up the collar of ❼ his worn, greasy black overcoat.

❸ *This beat benny* ❸ *wouldn't pawn for a deuce*, he thought.

❶ He was in the West Nineties. A long block of ❶ brownstone rooming houses. Here and there ❷ a holy wreath in a clean black window. Danny's ❸ senses ❹ registered everything sharp and clear, 10 with the ❺ painful intensity of junk sickness. The light hurt his ❻ dilated eyes.

He walked past a car, ❷ darting his pale blue eyes sideways ❸ in quick appraisal. There was a package on the seat and one of ❹ the ventilator windows was unlocked. Danny walked on ten

15

その日はクリスマスだった。車拭きのダニーは警察の留置場での72時間を終えて、薬が切れた一文なしの身で街に出た。晴れた明るい日だったが、陽には少しの暖かさもなかった。体の芯に寒気を抱えて、ダニーはぶるっと身震いした。着古しの、脂で汚れた黒いコートの襟を立てた。

こんなボロのコートじゃ質に入れても2ドルがせいぜいだな、とダニーは思った。

ここは西90丁目台。ブラウンストーン造りの下宿屋が何軒も、角から角まで並んでいる。あちこちの綺麗な黒い窓に、聖なる花輪が飾ってある。ダニーの五感は何もかもを、薬切れ固有の、痛いほどの強烈さで感じとった。瞳孔が開いた目に光が痛かった。

車が一台駐まっている。通りすぎながら、薄青い目をさっと横に向けて様子を見た。座席に何か包みが置いてあり、三角窓が片方ロックされていない。ダニーは3メートル歩きつづけた。あたりには誰もいない。指をぱちんと鳴

❶ the Car Wiper: べつにこういう職業があるわけではなく、人の車を拭いたりして小銭をもらい、隙あらば盗めるものは盗む人間ということ。

❷ hit the street: 街に出た

❸ junk-sick: クスリ切れで苦しい状態を言う。

❹ the precinct jail: precinct は警察小説などでは「～分署」と訳される。

❺ shivered with an inner cold: 直訳は「内なる寒さに震えた」。

❻ turned up the collar: 襟を立てた

❼ his worn, greasy black overcoat: 着古した、垢じみた黒いコート

❸ *This beat benny*: このおんぼろのコート (benny はスラング)

❸ *wouldn't pawn for a deuce*: 質に入れたら2ドルにもならない。a deuce: (スラング) 2ドル

❶ He was in the West Nineties: 西90丁目台にいた。この書き方で、ニューヨークを舞台にした小説だと見当がつく。マンハッタンで南北のおおよその位置を示すには、このように、東西にのびた通り (streets) を十単位で、さらに東側・

西側に分けて言うのが一般的。

❶ brownstone rooming houses: ブラウンストーン作りの下宿屋。brownstone (褐色砂岩) もニューヨークの建物の建築材料として非常に一般的で、この単語が出てきたらまず間違いなくニューヨーク小説。

❷ a holy wreath: 聖なる花輪。この一言でクリスマス・シーズンと決まる。

❸ senses: 五感

❹ register(ed): ~を記録する、受けとめる

❺ painful intensity: 痛々しい強烈さ

❻ dilated: (クスリ切れのせいで) 瞳孔が開いている

❼ darting his pale blue eyes sideways: 薄青い目をすばやく横に向けて

❸ in quick appraisal: すばやく値踏みして

❹ the ventilator windows: 通風窓。一昔前まで車の前方にあった小さな三角窓。

There was a time when I could travel England ^①for weeks on end and ^②remain at my sharpest—when, ^③if anything, ^④the travelling gave me an edge. But ^⑤now that I am older I ^⑥become disoriented more easily. ^⑦So it was that on arriving at the village ^⑧just after dark I ^⑨failed to find my bearings at all. I could hardly believe I was in the same village in which not so long ago I had lived and ^⑩come to exercise such influence.

There was nothing I ^⑪recognised, and ^⑫I found myself walking forever around ^⑬twisting, badly lit streets ^⑭hemmed in on both ^⑮sides by the little stone cottages ^⑯characteristic of the area. The streets often became so narrow I could make no progress without my bag or my elbow ^⑰scraping one rough wall or another. I ^⑱persevered nevertheless, ^⑲stumbling around in the darkness ^⑳in

かつてはイングランドを何週間も続けて旅しても、頭がこの上なく冴えたままでいられたものだった。むしろ、旅することでいっそう鋭さが増したくらいである。だが、もうそこまで若くないいま、私は前より簡単に混乱してしまう。かくして、日の暮れた直後に村に着いたときも、私には西も東もわからなかった。ここが、さほど遠くない昔に自分が暮らし、大きな勢力をふるうようになった村だとはとうてい信じられなかった。

見覚えのあるものは何ひとつなく、ふと我に返ると、曲がりくねった、照明も粗末な狭い街路をぐるぐる果てしなく歩いているのだった。この地方特有の、小さな石造りのコテージが両側から迫ってくる。街路はしばしばひどく狭くなって、ざらざらの左右の壁どちらかに鞆や肘を擦らないことには一歩も進めぬところも多かった。それでも何とか、暗闇のなかをおぼつかぬ足

15

- ① for weeks on end: 何週間も続けて
- ② remain at my sharpest: 最高に鋭敏な状態のままている
- ③ if anything: 何かあるとしても、むしろ逆に
- ④ the travelling gave me an edge: give ... an edge は普通「～を有利にする」の意だが、ここは文字どおり「～に鋭さを与える」という意味が強い。
- ⑤ now that I am older: 前より年をとったいま
- ⑥ become disoriented: (頭が混乱して) 自分がいまだどこにいるのか、わからなくなる
- ⑦ So it was that ...: というわけで～という結果になった
- ⑧ failed to find my bearings at all: 自分がいまだどうい位置にいるのか全然わからなかった。bearing(s) は文字どおりには「方位」の意だが、もう少し広く「自分の立場、状況」という意味になることが多い。
- ⑨ (had) come to exercise such influence: それほどの影響力を及ぼすようになった。come to ... は、時を経るなかで何らかの考えや力を持つようになることを言う。
- ⑩ recognise(d): 何かを見て「ああ、あれは何々だ」とわかったり、誰かを見て

「あ、どこそで見た人だ」とわかったりすることを言う。I didn't recognise you in your uniform. (制服を着てるんで見違えてしまったよ。Longman Dictionary of Contemporary English)

- ⑪ I found myself walking ...: 「歩いている自分を発見した」というほどの忘我状態を言っているわけではないが、そうするつもりはなかったのに何となくそうしてしまっていた、という含みはこの場合たしかにある。
- ⑫ twisting, badly lit streets: 曲がりくねった、照明も乏しい街路
- ⑬ hemmed in on both sides by ...: 両側から～に囲まれている
- ⑭ characteristic of ...: ～特有の
- ⑮ scraping one rough wall or another: どちらかのごつごつの壁に擦ってしまう
- ⑯ persevered nevertheless: それでも屈せずにつけた
- ⑰ stumbling <stumble: よたよた歩く
- ⑱ in the hope of coming upon the village square: 村の広場に偶然行きつくことを期待して。the village square は昔であれば市(いち)が立ったり集会が開かれたりする場所。